

# 緊急消防援助隊情報

## 令和2年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック 合同訓練の実施結果について

### 広域応援室・宮城県実行委員会

令和2年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等を踏まえた実施方針及び重点推進事項の変更から、図上訓練及び実動訓練規模を1日に凝縮して実施することとなりました。過去の災害対応の教訓により修正してきた各種計画等の検証及び横断的な各関係機関との連携力向上並びに迅速かつ効率的な受援体制の構築を図ることを目的とし、次のとおり実施しました。

#### 1 実施日

令和2年10月3日（土）9時00分から16時00分まで

#### 2 実施場所

##### (1) 図上訓練

- ① 宮城県庁講堂  
消防応援活動調整本部（東京消防庁統括指揮支援隊）
- ② 県防災ヘリコプター管理事務所  
航空指揮本部・航空指揮支援本部  
（福島県航空指揮支援隊）
- ③ 大崎地域広域行政事務組合消防本部  
指揮本部・指揮支援本部（札幌市消防局指揮支援隊）
- ④ 大崎地域広域行政事務組合 鳴子消防署  
前進指揮支援本部（新潟市消防局指揮支援隊）

##### (2) 実動訓練（緊急消防援助隊は道県大隊指揮隊のみ参加）

- ① 大崎市鳴子温泉鬼首地区 荒雄湖畔公園他  
土砂災害、津波災害救助救出訓練
- ② 仙台地区石油コンビナート等特別防災区域  
石油コンビナート区域災害対応訓練

#### 3. 実施内容

##### (1) 訓練想定

令和2年10月3日9時00分、宮城県北部で発生した直下型の地震により最大震度7を観測、その後も震度6弱の余震を観測した。

この地震により、宮城県北部、特に大崎市鳴子温泉鬼首地区を中心とする地域では、建物倒壊、火災、土砂災害等による人的・物的ともに甚大な被害が発生したほか、

その後の余震により仙台地区石油コンビナート特別防災区域内で火災が発生した。

##### (2) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

迅速出動適用災害を想定とし、4会場と連携したロールプレイング方式による、ブラインド型図上訓練を実施した。

新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者等の健康チェック、アルコール消毒やマスク等の着用の徹底並びにアクリル板やホワイトボード、フェイスシールドによる飛沫防止対策等を講じるとともに、Web会議システムを活用し他会場との情報共有体制等について検証した。

##### 《今後の課題等》

- 動態情報システム他機関（自衛隊・警察）入力機能や支援情報共有ツールを積極的に活用できた反面、入力項目が多岐にわたり煩雑となったため、情報整理が追い付かない場面があった。
- フェイスシールドによる飛沫防止対策は機動性が高く効果的であり、また、Web会議システムにより有効的に情報共有ができた。



消防応援活動調整本部設置運営訓練 宮城県庁

##### (3) 参集訓練

指揮支援隊及び道県大隊指揮隊は、実際の行動を動態情報システム及び支援情報共有ツールを活用しながら、図上訓練と連動させて参集を実施。

東京消防庁統括指揮支援隊は、自機関ヘリコプターにより参集訓練を実施した。

##### 《今後の課題等》

図上訓練と連動したことにより、図上訓練上の進出拠



点の決定・指揮支援隊等の部隊運用と実際の部隊進出・運用状況等の矛盾に対応（修正）できず一部参加隊で混乱が生じた。

#### （４） 部隊運用訓練

地震による地滑りから引き起こされたダム津波災害救助救出訓練と土砂災害救助救出訓練並びに石油コンビナート区域災害対応訓練を実施した。宮城県防災ヘリや陸上自衛隊松島救難隊による偵察・情報収集訓練及び救助訓練を実施したほか、指揮支援隊の活動統制の下、訓練項目ごとに現地合同指揮所を設置し、主に県内応援隊と地元消防団、関係機関が連携して救出活動にあたった。

また、中型水陸両用車や海水利用型消防水利システム等多数の消防庁無償使用車両の災害対応力について検証するとともに、仙台市消防局ヘリのヘリテレ、無線中継車及びドローンや、宮城県防災ヘリのヘリサット、大崎消防本部等のVSATによる映像送受信を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 被災県指揮隊が合同指揮所内の運営調整を進めるとともに指揮支援本部等で情報統制を行ったことで、円滑な情報共有を図ることができた。
- 今回の訓練は、消防機関に対してのみブラインド型訓練としたことで、各関係機関と消防機関の間で情報が十分に共有できず、活動連携において一部混乱が生じた。



土砂災害救助救出訓練 荒雄湖畔公園

#### （５） 後方支援活動訓練

拠点機能形成車及び支援車Ⅰ型等の無償使用車両資機材等を活用し、今年度策定された宮城県後方支援活動要領に基づいた、県一体となった後方支援体制の検証を行った。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した活動拠点の設営等について、デコンエリアの配置や宿営テント内のベッド等の配置等について、検証と確認を行った。

#### 《今後の課題等》

コロナ禍においては3密回避等のため、テントの収容人員の縮小や感染防止対策資機材等の設置が新たに求められることから、テント等の資機材増加に伴う搬送スペースの確保や搬送車両の増強等を考慮し、後方支援体制の再検討が必要であると感じた。



後方支援活動訓練 荒雄湖畔公園  
(新型コロナウイルス感染症対策を講じたテントの展示)

#### 4. おわりに

今回の訓練は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した環境下で、規模を縮小し図上・実動訓練を実施しました。消防応援活動調整本部、指揮本部及び指揮支援本部並びに航空指揮本部・航空指揮支援本部における運用調整を実施し、部隊進出については、各道県大隊指揮隊が進出時の情報共有を図りながら進出拠点へ集結する訓練内容としたほか、部隊運用訓練を大崎市鳴子温泉鬼首地区の土砂災害及び津波災害と仙台市の石油コンビナート区域災害に限定し、消防機関・自衛隊・警察・海上保安庁その他関係機関との連携訓練としました。

コロナ禍において、緊急消防援助隊の受援体制及び関係機関との情報共有・連携活動等において課題等が明らかとなり、実災害への対応に向けた大変有意義な訓練であったと考えております。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努めて参ります。

最後に、本訓練の開催に際しまして、多大な御協力を賜りました北海道東北ブロック各道県、参加各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

#### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室  
TEL: 03-5253-7527 (直通)